No.1

大切な水資源を守るためにできること

宮崎大学附属小　六年　岩本　愛加

「果たして、水はいつまであるものだろうか？」ふと私は考えました。全ての物は永遠に続くことは難しいと思っているので、いつかは枯れてしまうのではないかという不安もあり、調べてみることにしました。

私達の生活は、じゃ口をひねれば水道水がいつまでも出続けるのは当たり前になっています。しかし、世界中へと視野を広げた時に、どれ位の使える水の量があるのでしょうか。地球上にある全部の水を100％とした時、97.5％は海水です。残りの2.5％が淡水とするとまずこれらが生活水となるところから考えます。すでにこの時点で少ない数字がわかります。この2.5％の内、70％は北極や南極の氷であるため、飲用とは考えません。残りの30％の中のたった0.01～0.02％が飲み水を含め生活用水として使うことができるという現状を知りました。これは、地球全体を空気ボールと見たて

その中に水を満水にした時、人類が使える生活用水はスプーン一杯分ほどにしかならない計算になるそうです。なんと少ない量でしょう。私はがく然としました。

そのために、世界では水不足が起こっている地域があります。原因として土地・地形による場合もありますが、人口増加や地球温暖化もあげられます。現在の世界人口は80億人を突破したと国連は発表しています。気温だって、2100年には最大4.8℃上昇する可能性があるとさえ言われています。気温の上昇は水のじょう発にもつながってしまうおそれがあるので、私達が使える水は減少していくという悪い流れがうまれます。この少ない資源である水をどのように使うのが良いかを、改めて考える時期になってきていると思います。

ここ数年、話題になっている「SDG，SDGの目標」は、私達の生活の中で、ずい分と身近になってきました。これは世界のさまざまな問題を根本的に解決し、全ての人達にと

アピカ 20×20

ってより良い世界をつくるために設定された世界共通の目標です。2015年に国連サミットで採たくされ、2030年までに達成されることが定められましたが、8年目に突入している今をみると、まだまだという部分がたくさんあります。この中の6番目の目標には水に関する「安全な水とトイレを世界中に」という項目があります。少ない水資源のなか、今だにどろ水や川から直接くみ取った水を飲用水として利用する国もあります。世界中の人々に安心安全な水が行き届くよう日本の技術が他国に援助されていることもわかりました。また、一回につき4Lともいわれるトイレの水は節水されてきたとはいえ、ぜいたくな使い方です。それなら、大小のレバーの使い分けをしたり、自分のできることから取り組みたいと思います。

日本に住む私達の生活は水が豊かですが、これが当たり前ではないことをしっかりと心に刻んでおくことが大切だと思います。

アピカ 20×20

生活の中で一番使う水。最近は、じゃ口のレバーもユニバーサルデザインで、使い易い形状のものが普及しています。さまざまな年齢の人に対応し、障害のある人でも少しの力で水を出すことができます。センサー式の自動じゃ口もあるほどです。しかし、水を出し易いというのは、むだ使いにもつながる時もあるのではないか、という思いもあるので一人一人が必要な時に必要な分だけを利用することを考えていかなければならないと思います。

生活をより豊かにする水の利用について、一人一人が責任を持った行動をすることが必要です。そのために今、私がするべきことは今回調べたことを学校の友達や身近な人に伝えていくことだと強く感じました。

アピカ 20×20